

令和7年度（2025年度）
「中学校給食に関するアンケート」調査結果

令和8年（2026年）2月

令和7年度（2025年度）「中学校給食に関するアンケート」

【実施目的】

中学校給食について、今後の事業展開や献立作成の参考とするため、生徒・保護者・教職員の意見をアンケートにより調査するもの。

【対象者】

豊中市立中・義務教育学校（後期課程）に在籍する生徒、保護者、教職員

【調査時期】

令和7年（2025年）9・10月

【調査方法について】

オンラインによるアンケートを実施
保護者には、コドモンで周知及び依頼

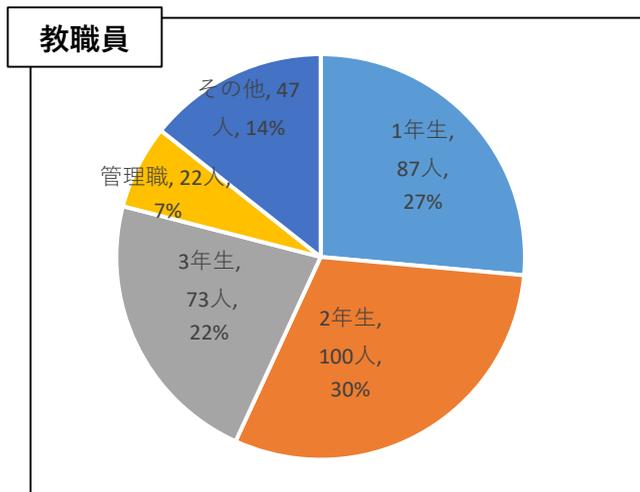
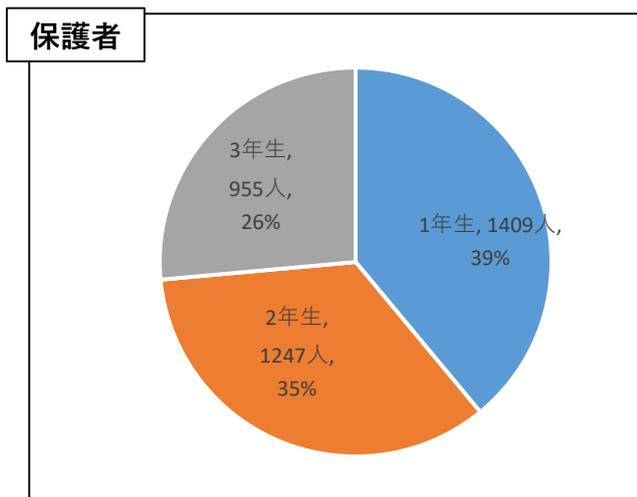
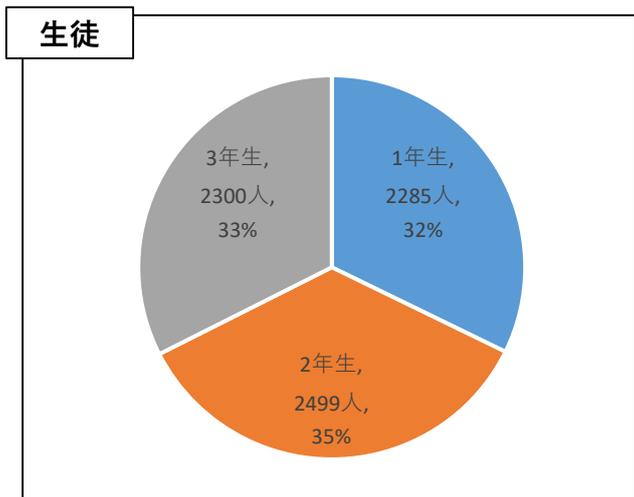
【回答率】

対象者数と回答数

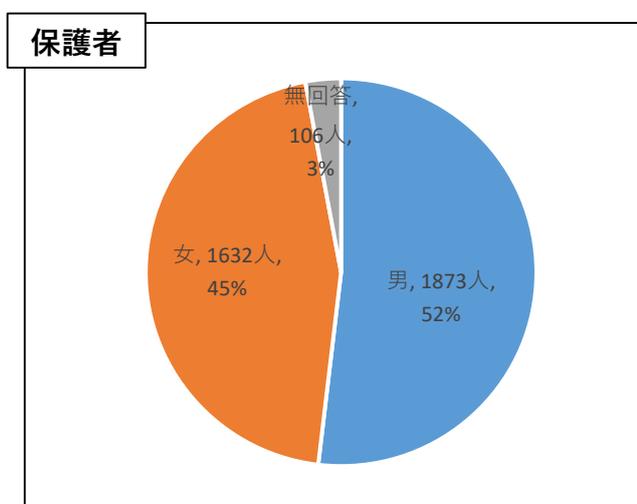
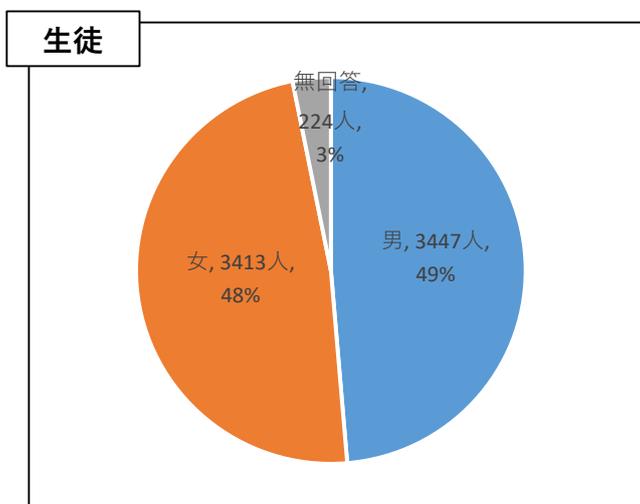
	生徒	保護者	教職員
対象者数	9,922人	※4,929人	731人
回答者数	7,084人	3,611人	329人
回答率	71.4%	73.3%	45.0%

※保護者対象者数は、コドモンで案内を送付し、既読になった人数を記載

1 回答者の所属している学年(こどもの所属している学年)

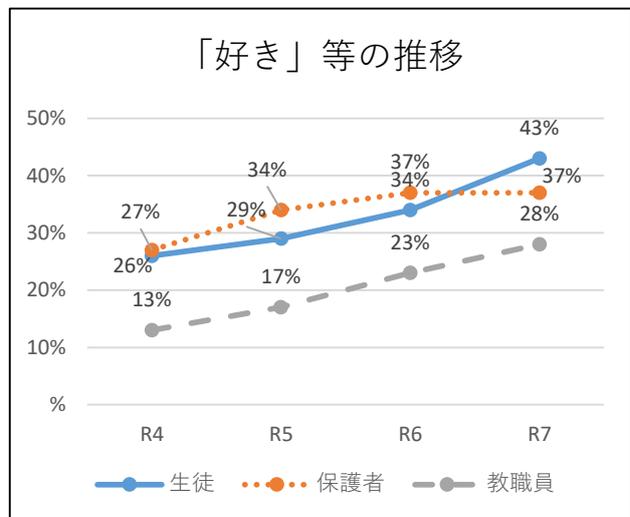
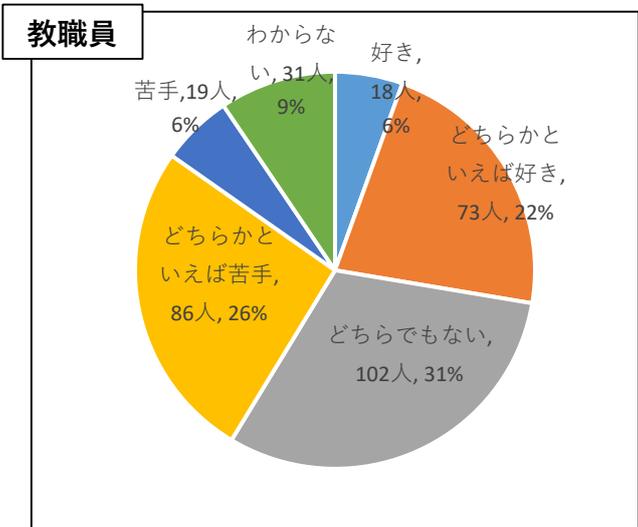
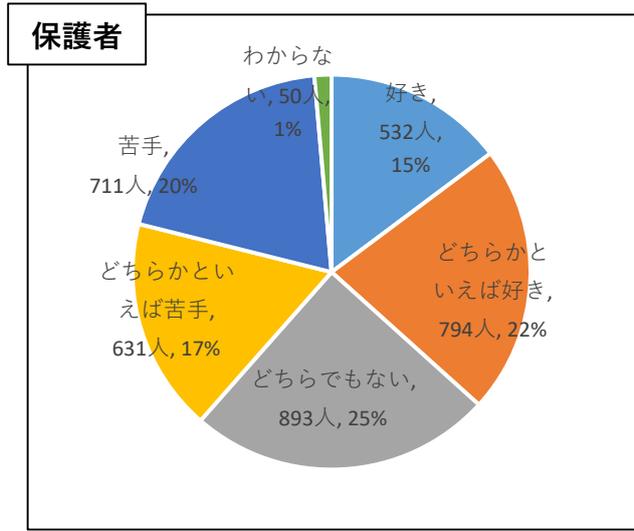
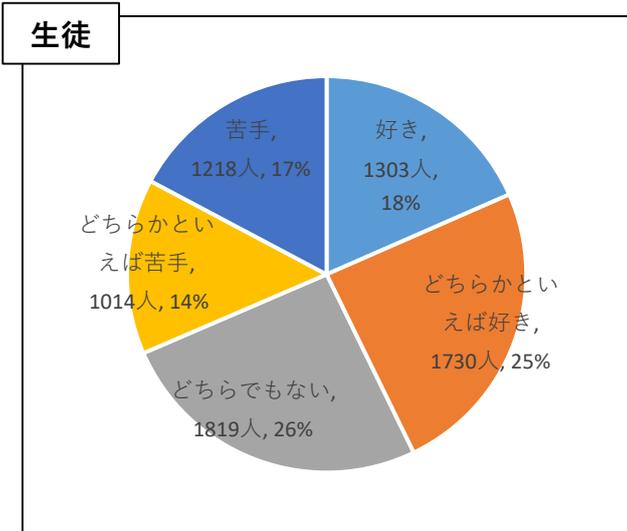


2 性別(保護者はこどもの性別を記入)※教職員への質問はなし



3 給食が好きですか

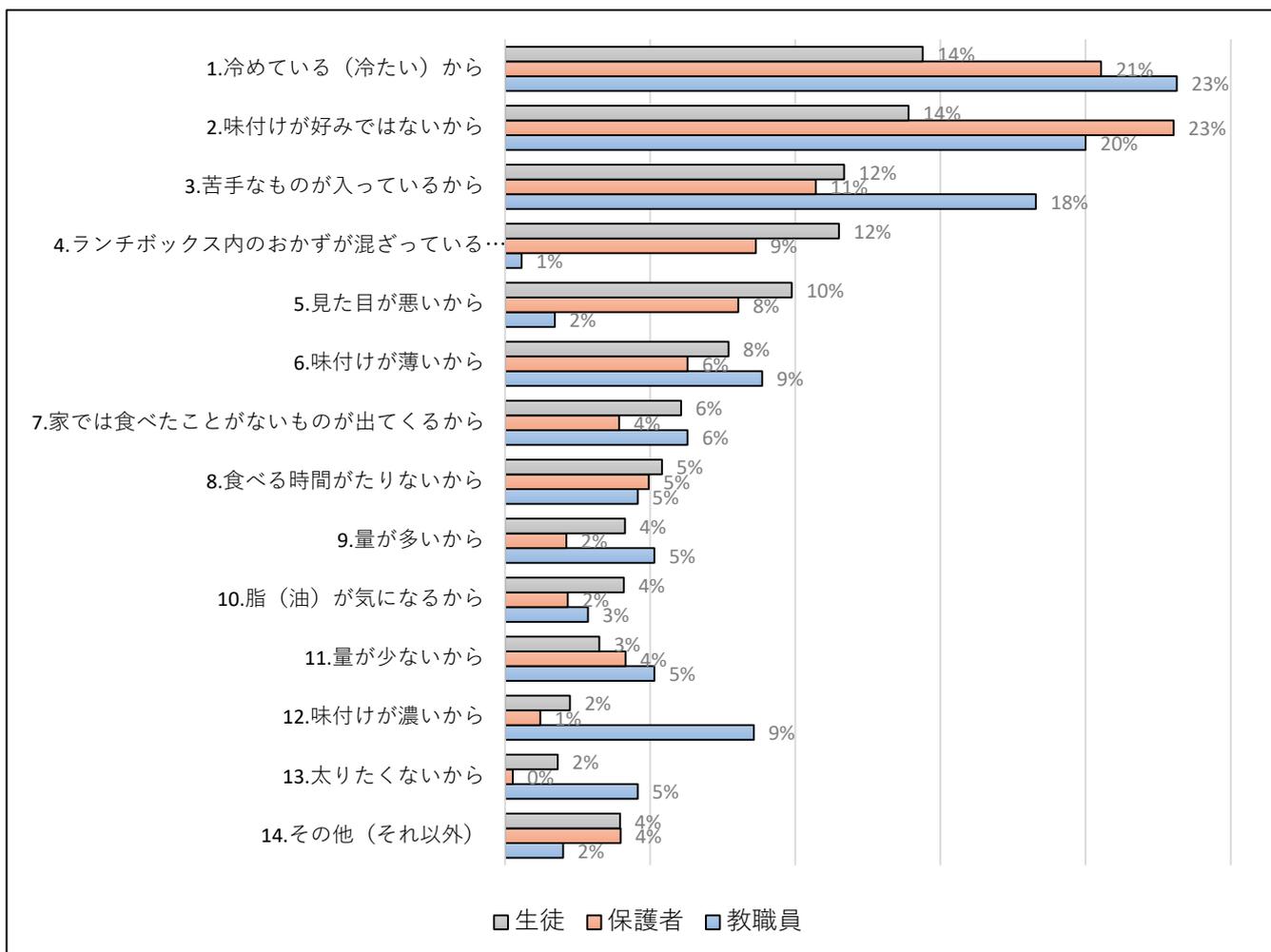
※保護者は、「お子さまは給食が好きですか」
 ※教職員は「生徒は給食が好きですか」



○生徒・教職員でみると、ともに「好き」「どちらかといえば好き」と回答した人数および割合が前年度より増加しており、「苦手」「どちらかといえば苦手」と回答した人数および割合が減少している。令和4年度からの比較をみても、生徒及び教職員については、給食に対して好意的な印象を持つ人が増えてきていることがわかる。

○全体的にみると、保護者や教職員のうち、32～37%が生徒は給食を苦手と感じているが、実際に喫食している生徒が苦手と感じている割合は31%にとどまっており、約7割の生徒が、給食に対して苦手意識なく、給食を喫食していることがわかる。

4 「どちらかといえば苦手」「苦手」と答えた人にお伺いします。
「どちらかといえば苦手」又は「苦手」を選んだ理由を記載してください。【%】



○生徒において、「冷めている（冷たい）から」が1番目の理由になっているが、安全な温度でランチボックスを届けるためには、冷たい状態で配送を行う必要があり、この部分についての改善は難しいが、食缶で提供しているものは、できるだけ温かい状態で提供できるよう、改善の必要がある。

○「味付けが好みではないから」および「苦手なものが入っているから」が2番目、3番目となっている。生徒の望ましい食習慣の形成のためにも、給食の役割や栄養バランスについて等、生徒に伝わる食育推進に、より力を入れる必要があると考えられる。

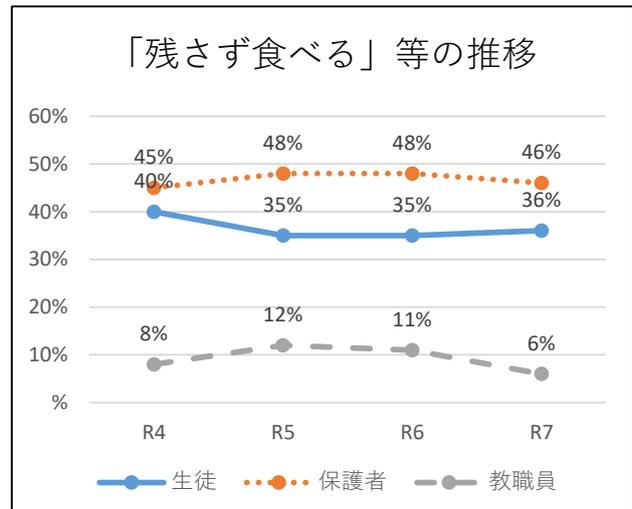
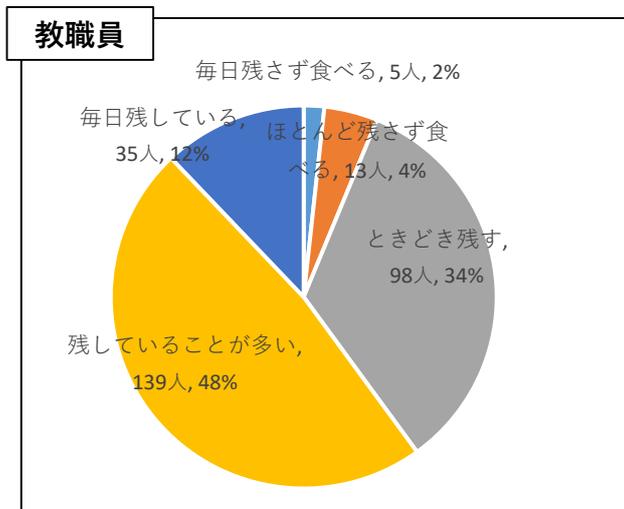
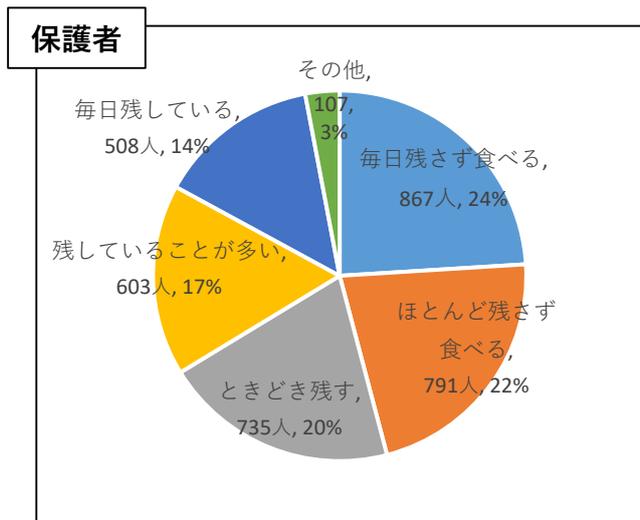
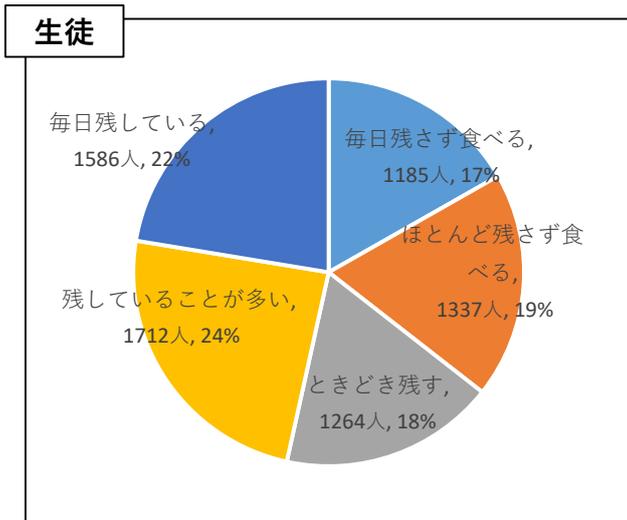
○昨年度4番目に高かった「味付けが薄いから」は6番目と昨年に比べて回答人数も少なくなっている。

○「見た目が悪いから」といった理由が5番目に入ってきており、献立としては見た目の改善を求められていると考えられる。

5 給食を全部食べていますか

※保護者は、「お子さまは給食を全部食べていますか」

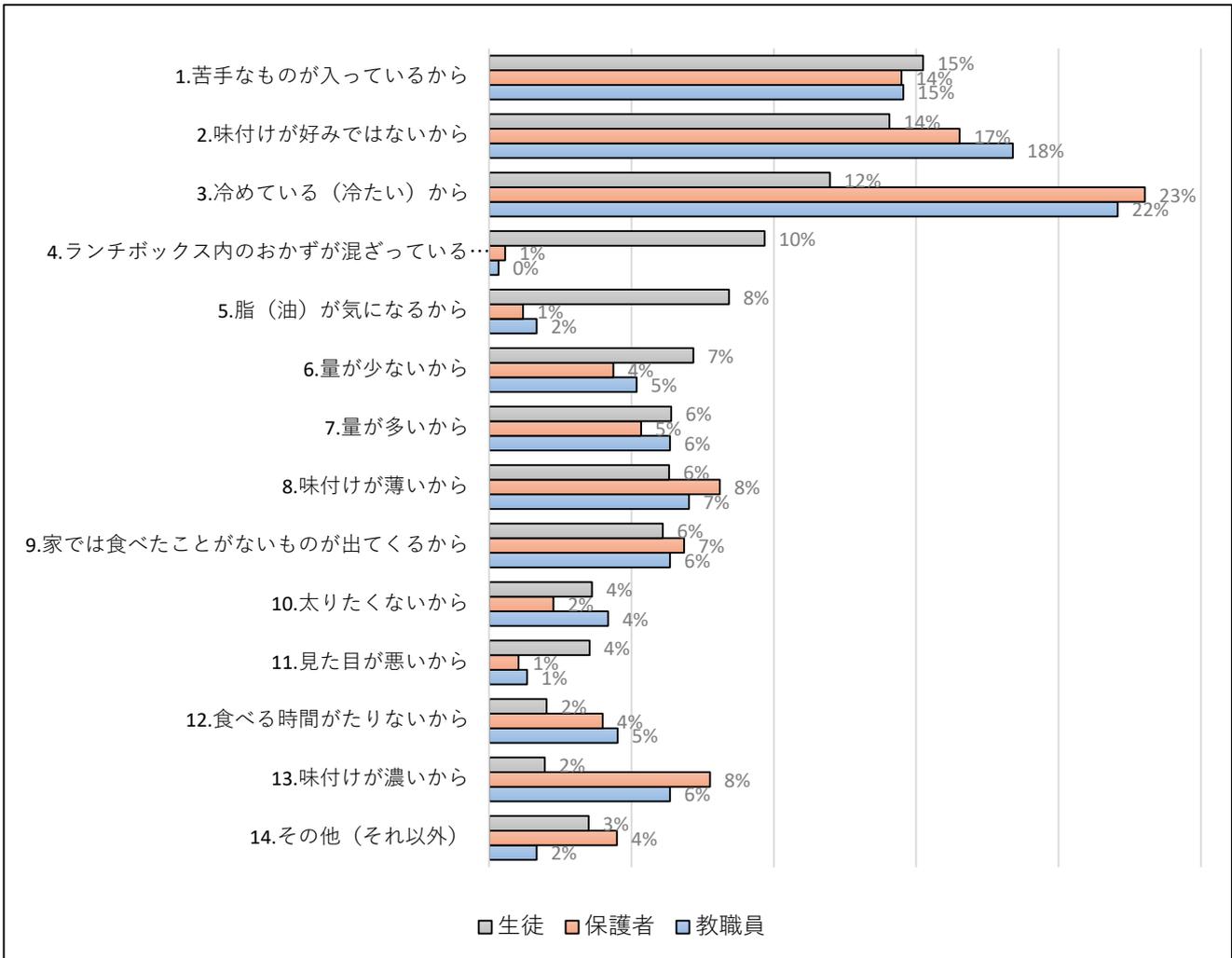
※教職員は「生徒は給食を全部食べていますか」



○生徒における「毎日残さず食べる」「ほとんど残さず食べる」の回答は、36%となっており、前年度からほぼ横ばいである。

○昨年度、献立の組み合わせなどの改善と合わせて、食育を推進し、少しでも多く食べてもらうことを課題としていたが、昨年と割合がほぼ同じであることより、引き続き学校現場の食育推進の手助けや、より学校現場に参入していく取り組みが必要であると考えられる。

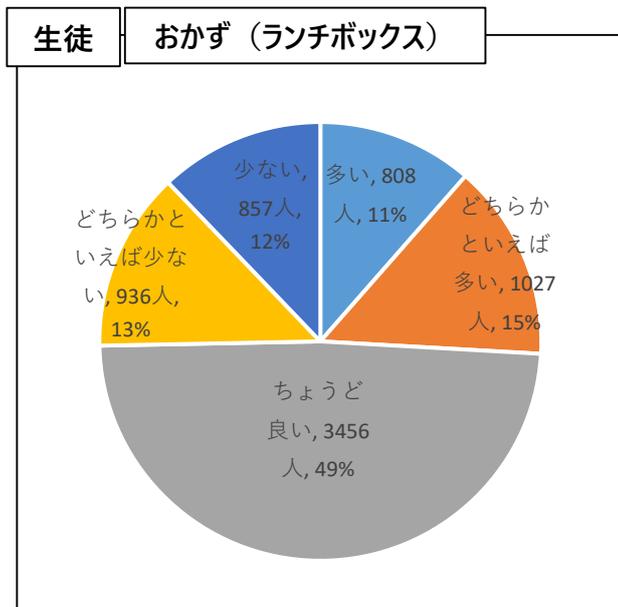
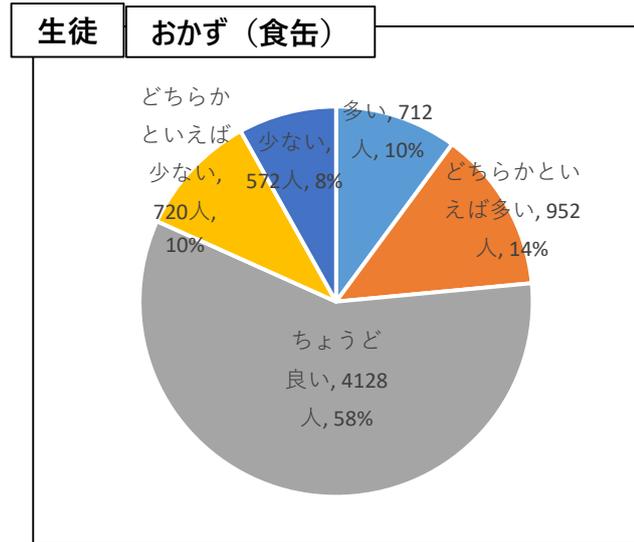
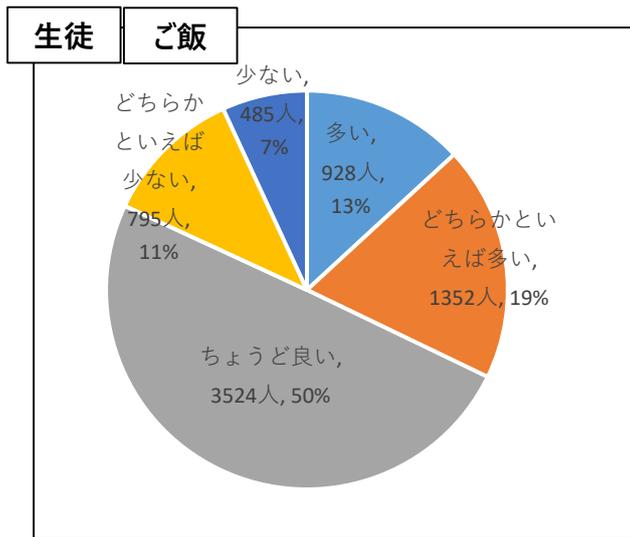
6 「残していることが多い」「毎日残している」と答えた人にお伺いします。
給食を残す理由は何ですか(複数回答可)【%】



○残している理由は「苦手な理由」と異なり、生徒の1番目の理由は、「苦手なものが入っているから」となっており、続いて「味付けが好みではないから」、「冷めている (冷たい) から」となっている。

○「冷めている (冷たい) から」、「ランチボックス内のおかずが混ざっている」等、生徒と、保護者および教職員にて回答に差があった項目が多数見受けられた。イメージと実際の様子とは異なっている部分も出てきている可能性や、新たな改善点が出てきていることが考えられるため、現状に合わせて求められる対応を行っていく必要がある。

7 量はどうか



○昨年度と比較し、すべての項目でちょうど良いと回答した人が増加しており、量の見直しを行った成果が出ていると考えられる。

○ランチボックスのおかずに関して、多い、どちらかといえば多いと回答している割合と、少ない、どちらかといえば少ないと回答している割合が約25%ずつとなっており、量に関して個人差があることが改めて分かる。この課題に対しては、食缶で提供しているおかずの方がちょうど良いと回答している割合が高いことから、食缶での提供を行うことで改善できると考えられる。

○ご飯に関しては32%が多いと回答しており、昨年度よりは減っているが、おかずと比較すると多いと感じている人が多いことがわかる。

今後も、引き続きごはんを食べやすくする献立の立案や、ごはんを食べる大切さを伝えていく必要があると考えられる。

まとめ

給食への満足度は年々高くなってきている。特に今年度は、実際に給食を喫食している生徒および教職員の満足度が高くなってきていることが分かった。

しかし回答によっては、生徒と、教職員および保護者に乖離がある項目がいくつか見受けられたため、現状に合わせて求められる対応を行いながら、乖離を埋める情報提供もあわせて行っていく必要があると考えられる。

また、生徒の望ましい食習慣の形成のためにも、給食の役割や栄養バランスについて等、より生徒に伝わる食育推進が必要であると感じられる回答となっていた。

例年課題として挙がっていた、「冷めている」や「ランチボックス内のおかずが混ざっている」などの問題については、令和9年度3学期より、全てのおかずを食缶で提供する方向で進めており、この実現により改善できると考えられる。

今後も、引き続きアンケートの結果を参考に、献立の改善や食育を進め、より給食の満足度を高めていけるよう取り組んでいく。